

株主のみなさまへ
..... Vol.48

株主通信 第112期
2018年1月1日～2018年12月31日



SHIMANO

表紙:2018年7月 第105回ツール・ド・フランス第17ステージの様子 表紙写真撮影者:Cor Vos

SHIMANO



代表取締役社長 島野 容三

事業の経過及び成果

当連結会計年度におきましては、欧州では、雇用・所得環境の改善を背景として個人消費が安定的に推移し景気は緩やかな回復基調を辿ったものの、米中通商問題に伴う先行き不透明感の高まりが景気の回復ペースに少なからず影響を与えました。米国では、減税政策を背景に企業業績が好調を保ち良好な雇用環境が堅調な個人消費を牽引したことから、景気は順調に拡大しました。国内では、相次ぐ豪雨や台風等の自然災害により消費や輸出に一時的な陰りが見えたものの、堅調な雇用環境が個人消費を下支えし景気は底堅く推移しました。

このような状況のもと、当社グループは、「人と自然のふれあいの中で、新しい価値を創造し、健康とよるこびに貢献する。」を使命に、健康志向や環境保全意識の高まりといった追い風の中、こころ躍る製品づくりを通じ、より豊かな自転車ライフ・フィッシングライフのご提案をしております。

この結果、当連結会計年度の売上高は348,035百万円（前年

同期比3.6%増）となりました。また、利益面につきましては、営業利益は65,687百万円（前年同期比2.1%増）、経常利益は73,588百万円（前年同期比32.0%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は53,931百万円（前年同期比40.3%増）となりました。

自転車部品

欧州市場では、4月以降の好天が夏季に入っても続いたこともあり、完成車の店頭販売は電動アシストスポーツバイクを中心に全般的に好調でした。また、市場在庫は低めで推移しました。

北米市場では、店頭での完成車販売台数は前年を下回ったものの、高級モデルへの切り替えが進んだ結果販売金額は前年並みで推移しました。市場在庫は適正なレベルを維持しました。

中国市場では、完成車の店頭販売は前年を下回りましたが、市場在庫は適正な範囲で推移しました。

他の新興国市場では、東南アジア市場では、完成車の店頭販売はインドネシアで回復傾向は見られるものの市場全体では力強さを欠きました。南米市場では、消費にやや陰りが見られたブラジルは最終的には底を打った一方で、アルゼンチンは通貨安の影響で低迷しました。アルゼンチンを除き市場在庫は適正水準を保ちました。

日本市場では、年初の寒波に始まる天候不順や自然災害の影響もあり、スポーツタイプ自転車及び軽快車ともに店頭販売は振るわずに推移しましたが、店頭での電動アシスト車全体の販売の伸張の中、特に電動スポーツアシストバイクへの注目度が増しました。市場在庫は適正範囲内ながらやや高めで推移しました。

このような市況のもと、高級ロードコンポーネントの一翼を担う新製品SHIMANO 105シリーズ、電動スポーツアシストバイクコンポーネントの新製品SHIMANO STEPS E7000/E6100の2シリーズが好評を得ました。

この結果、当セグメントの売上高は277,243百万円（前年同期比2.6%増）、営業利益は57,250百万円（前年同期比0.3%減）となりました。

釣具

日本市場では、年初来相次ぐ自然災害が釣場環境や消費者マインドに影響を及ぼし、小売業の販売は力強さを欠きました。

海外市場において、北米市場では、東海岸でハリケーン災害があったものの拡大基調の景気に支えられて販売は堅調に推移しました。欧州市場では、主要市場のひとつであるイギリスの流通在庫は高めで推移したものの適正化の兆しが見られました。豪州市場では、3月のサイクロン発生以降は好天が続き販売は堅調なものとなりました。アジア市場では、スポーツフィッシング人気の高まりを受け中国・韓国・東南アジア市場における販売は好調に推移しました。

このような市況のもと、日本では引き続きルアー関連新製品を中心に高い評価をいただき売上は前年を上回りました。海外市場ではとりわけデジタルコントロールプレーキシステムを搭載した新製品のベイトリール「Curado DC」が高い評価をいただき全体の売上は前年を上回りました。

この結果、当セグメントの売上高は70,436百万円（前年同期比8.0%増）、営業利益は8,544百万円（前年同期比21.8%増）となりました。

その他

当セグメントの売上高は355百万円（前年同期比4.7%減）、営業損失は107百万円（前年同期は営業損失72百万円）となりました。

期末配当のご報告

当社は、株主のみなさまに対する利益還元を経営上の重要課題と捉えており、安定的な配当の維持・継続とともに、業績の進展に応じた成果の配分を行うことを基本方針としております。この基本方針に基づき、今回の期末配当金につきましては、前年同期と同額の1株当たり77円50銭（うち特別配当71円25銭）

の配当とさせていただきます。これにより当期の年間配当額も前期と同額の1株当たり155円となりました。

なお、次期の配当につきましては、1株当たり年間配当額155円（中間配当金77円50銭、期末配当金77円50銭）を予定しております。

今後の見通し

今後の見通しにつきましては、欧州では、イギリスのEU離脱交渉における混乱、イタリアの財政不安の高まりといった不安要素が顕在化した場合に景気が減速するおそれがあります。米国では、旺盛な個人消費による景気の拡大基調が見込まれる一方で、減税効果の剥落による成長ベースの鈍化が懸念されます。国内では、良好な雇用環境を背景に個人消費の底堅い推移が見込まれ緩やかな景気回復が期待できるものの、消費税が消費者マインドに影を落とす可能性があります。また、世界的に米中通商問題の景気への影響が懸念されます。

このような経営環境の中、当社グループは、国内外の経済動向に注視しつつ、経営効率のさらなる向上を図り、より豊かで、新たな自転車文化、釣り文化の創造を促進してまいります。

その結果、2019年12月期の連結業績予想は以下のとおりいたします。

	2019年12月期	前年同期比(%)
売上高	3,650 億円	4.9
営業利益	730 億円	11.1
経常利益	730 億円	△0.8
親会社株主に帰属する当期純利益	540 億円	0.1

株主のみなさまにおかれましては、今後ともなにとぞ変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2019年3月

Shimano (Kunshan) Bicycle Components Co., Ltd. Shimano (Kunshan) Fishing Tackle Co., Ltd.



SKC

SKCの第2工場である「Kunshan Intelligent Plant」(KIP)をご紹介します。

KIPは、シマノ本社工場と同じく知識集約型の工場として2014年11月に竣工しました。

効率の良い生産工程や高い生産品質を構築する重要な役割を担っています。

また、音、空気、温度にも配慮した設備を導入するなど、働く人はもちろんさまざまな環境面への負荷低減に取り組んでいます。



SKF

SKFの新工場をご紹介します。

当工場は、中国におけるフィッシングロッドを安定して生産する拠点として2018年3月に竣工しました。

KIP同様、知識集約型の工場として効率的となる生産ライン配置の工夫をはじめ最新鋭の自動化設備の導入などにより徹底的にロス削減の活動に取り組んでいます。



KIP内の作業風景



KIP内の設備

当社グループの中国における自転車部品生産拠点であるShimano (Kunshan) Bicycle Components Co., Ltd. (SKC) と釣具生産拠点であるShimano (Kunshan) Fishing Tackle Co., Ltd. (SKF) をご紹介します。SKCは1992年、SKFは2003年の設立以来、その生産拠点としての重要性はより高まっています。

記念式典

2018年9月にSKC25周年・SKF15周年を祝う記念式典が開催されました。

式典には、多くのSKC、SKFの従業員だけでなく、その協力会社の方々や当社グループ会社の社員も参加しました。SKCとSKFの当社グループに対するこれまでの貢献を称えとともに、両社の今後の益々の発展が期待される式典となりました。

これからも、両社はシマノにおける重要な生産拠点として、さまざまな環境面への配慮をはじめ、さらなる生産効率化を目指して歩んでいきます。



『欧米E-BIKE市場に向け新たにE7000・E6100・E5000シリーズをリリース』 E8000シリーズを含めた4つのラインナップで多彩な楽しみ方を提案



世界的に大ブームになっているE-BIKE（電動アシスト自転車）ですが、シマノは欧米市場に向けて新たに3つのコンポーネント・シリーズをリリースしました。すでに展開しているハイエンドのE8000シリーズに加えて、本格的な山道でのライディングに対応するマウンテンバイク向けE7000シリーズ、都市散策や自転車通勤に適したシティ・トレッキングバイク向けにE6000をモデルチェンジしたE6100シリーズと新しいE5000シリーズの計4シリーズを提供することで、さまざまなサイクリストのライフスタイルに合わせた多種多様なE-BIKEに最適なコンポーネントを提案し、拡大する市場のニーズを幅広く捉えていきます。

新シリーズのドライブトレインでは、ペダルへの入力とモーターからの出力とのバランスを最適化することでモーターによるバッテリー消費の効率化を図りました。この高効率なドライブトレインによって従来よりもより長い距離を走れるようになりました。

シマノは、E-BIKEも自転車の一つであるという発想のもと、快適で自然なハンドリングとライディング、そしてスムーズなアシストによるパワーバランスのとれたペダリングにより、サイクリストにこれまでにないほど心地よく、胸はずむライディング体験を提供していきます。

マウンテンバイク向け

E7000 Series



シティ・トレッキングバイク向け

E6100 Series



E5000 Series

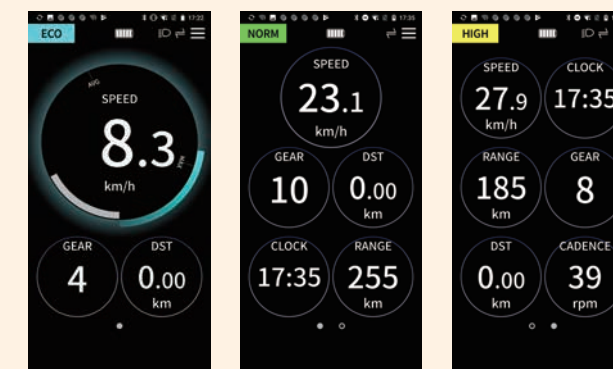


E-TUBE RIDE



E8000*・E7000・E6100・E5000シリーズに向けて、スマートフォンをE-BIKE用のサイクルコンピューターとして使えるE-TUBE RIDEというアプリケーションをリリースしました。このE-TUBE RIDEでは、E-BIKEの走行状況やバッテリー残量、モーターアシストの出力などさまざまな情報がスマートフォンの画面にわかりやすく表示されます。直感的に操作ができるので、ダウンロードすれば誰でもすぐに楽しめるサイクルコンピューターとなります。今後もシマノはE-BIKEをはじめ自転車の楽しみ方をより一層深めていく商品・サービスの提供を通じて、自転車文化の発展に努めてまいります。

※E8000シリーズではオプション対応





大型スピニングリールのフラッグシップモデル STELLA SWが「パワー」「耐久性」「操作性」の面で進化

2019年、新しいSTELLA SWが、よりパワフルにより強くなってリリースされます。

リールのメインシャフト摺動部（滑らせて動かす部分）の摩擦抵抗を軽減させた新機構「インフィニティドライブ」の採用により、高負荷時にも軽く巻き上げることが可能になりました。

さらに、10000番以上のサイズのものには、ドラッグ機構*としてヒートシンクドラッグを新たに搭載しました。マグロのような超大型魚に高速で強く引かれたとしても、ドラッグの熱ダレ（熱によりドラッグ機構の働きが低下すること）やラインへのダメージを従来より

も抑制することに成功しました。想定外の大物がかったとしても、これまで以上にリールや糸へのダメージを気にせずに魚とのやりとりが可能になりました。

世界中のアングラーに、この新しいSTELLA SWを使用して夢の大物を釣り上げてもらうことを願っています。

*魚の急激な引きに対してスプール（リールの糸が巻いてある部分）を逆転させラインを送り出し、ラインブレイクを防ぐ役割をします。

スピニングリールの 最軽量モデルVANQUISH が大幅な軽量化で新生

自重の軽さと巻きの軽さを特徴として誕生したもう一つのフラッグシップモデルVANQUISHは、2019年さらに進化してリリースされます。

今回のVANQUISHの開発においては、アングラーが驚くほどのレベルまでの軽さを目指しました。これまで手を付けてこなかった部分まで徹底的に見直して、前モデルに対し約10%もの軽量化に成功しました。剛性もキープし、耐久性に関しては向上しています。さらに、スプールをロングストローク化し、キャスト性能もアップさせました。

「軽い」のに「強い」、そして「飛ぶ」これが新しいVANQUISHです。アングラーにとって操作性、感度の向上につながり、VANQUISHはこれまで以上に釣果アップが期待できる製品となりました。



SALT SHORE ANGLERS MEETING の開催

2018年9月24日、三重県の日市ドームアリーナにて、「SALT SHORE ANGLERS MEETING 2018 in 三重」を開催しました。海岸からルアーで魚を狙うソルトショアルアーフィッシングを楽しむ方々を対象に、製品に触れ、シマノインストラクターとの時間を楽しんでいただくのがこの「SALT SHORE ANGLERS MEETING」です。

このイベントでは、シマノの企画・開発スタッフが直接製品に関する生の情報を多くの方に伝えることができ、参加者の方にリール・ロッド・ルアーを希望の組み合わせで実際にキャストし製品を体感していただくことができました。

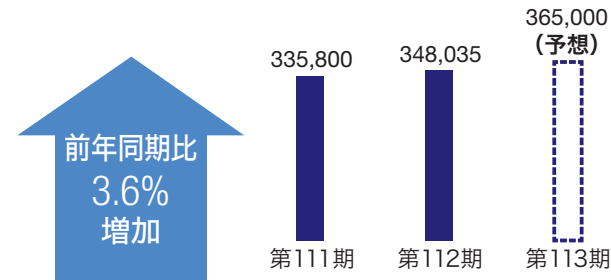
また、ソルトショアルアーフィッシングにおいてシマノを代表する6名のインストラクター/フィールドテスターによるイベントも開催され、参加者にはインストラクターのトークショーや直接のふれあいを楽しんでいただきました。

参加者からは「普段、ネットやTVで見るインストラクターから直接、アドバイスをもらえた!」、「試してみたいアイテムを実際にキャストできてよかった!」といった本イベントを評価するご感想を多数いただきました。

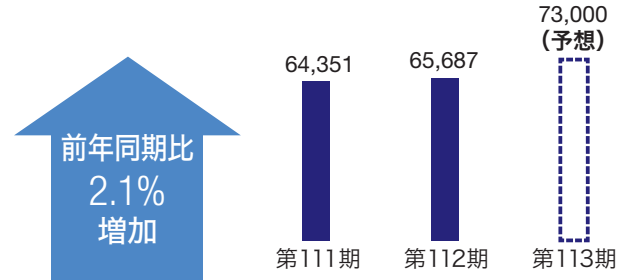
これからも、より参加者の方々に満足していただけるようなイベントづくりを行い、シマノのブランドイメージ向上に向けて取り組んでまいります。



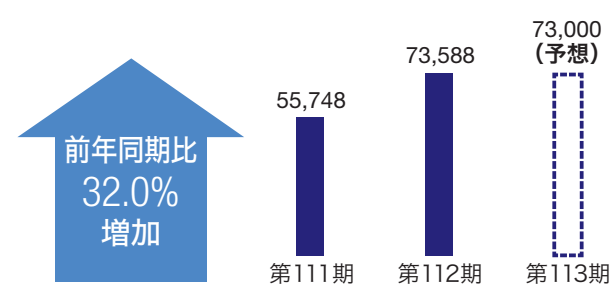
連結売上高 (単位: 百万円)



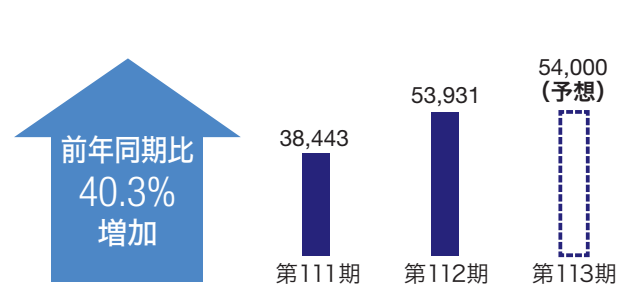
連結営業利益 (単位: 百万円)



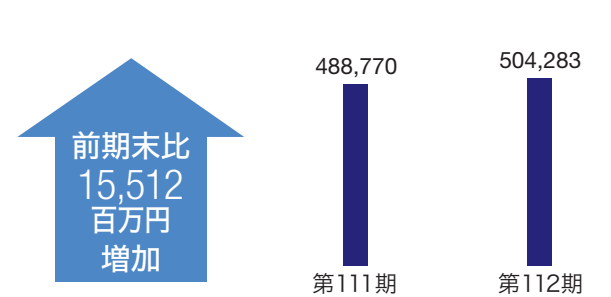
連結経常利益 (単位: 百万円)



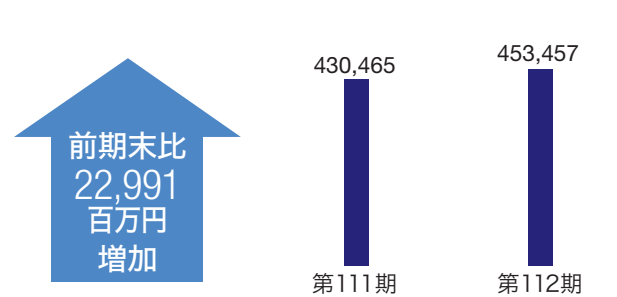
親会社株主に帰属する当期純利益 (単位: 百万円)



連結総資産 (単位: 百万円)

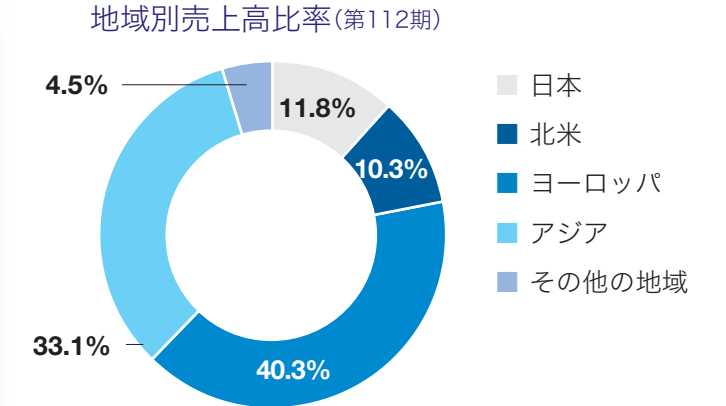


連結純資産 (単位: 百万円)



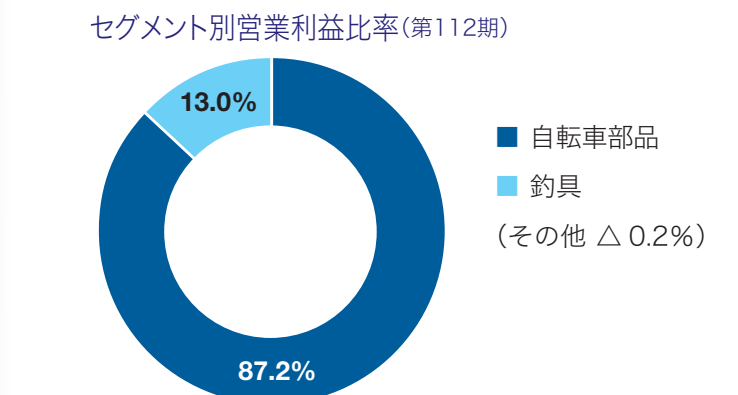
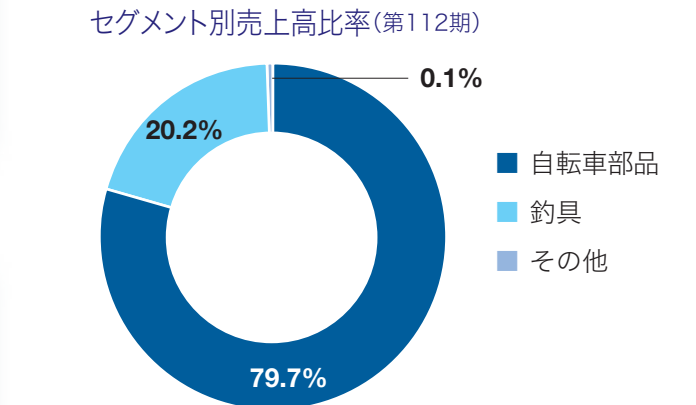
■ 地域別売上高の状況 (単位: 百万円)

	第111期	第112期
日本	38,305	41,180
北米	35,770	35,855
ヨーロッパ	128,347	140,049
アジア	116,513	115,220
その他の地域	16,863	15,729

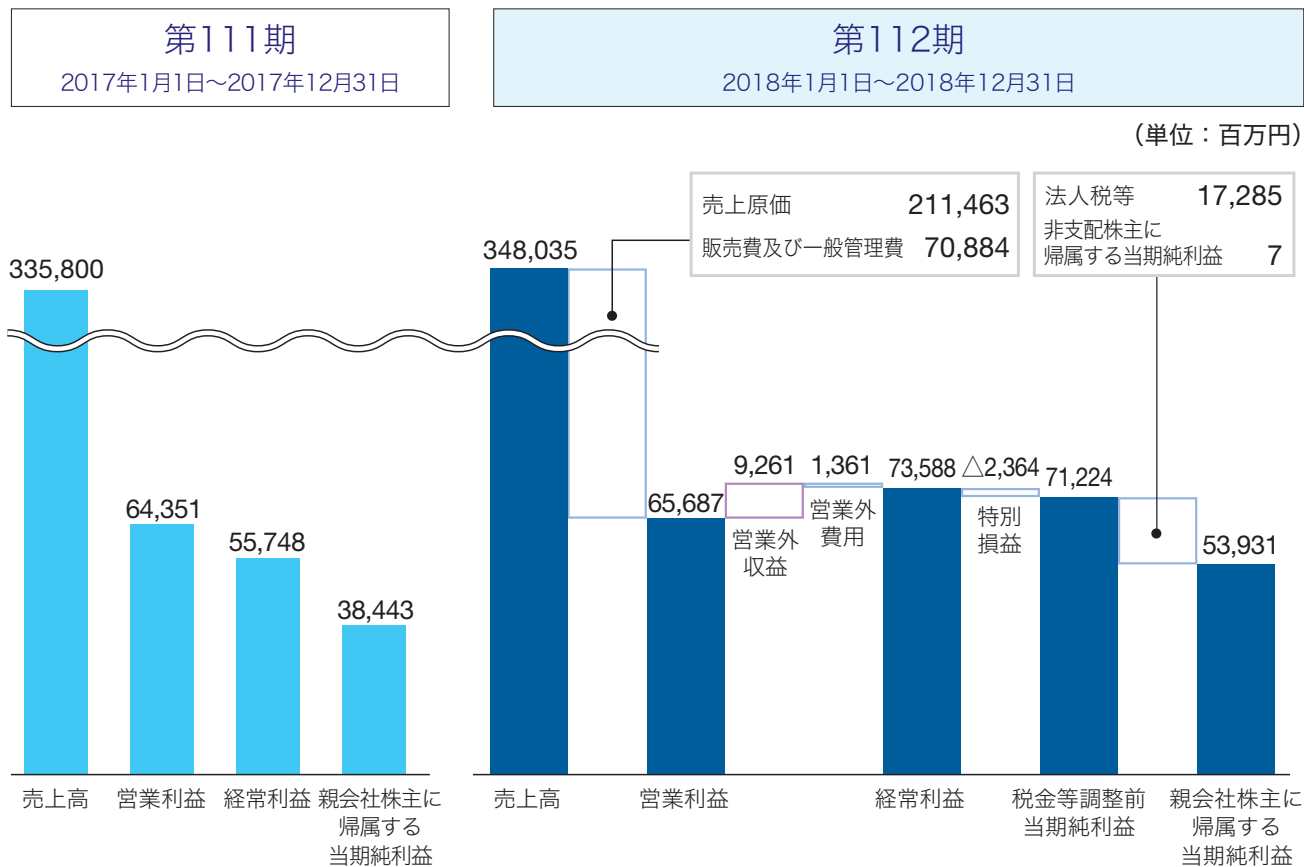


■ セグメント別売上高と営業損益の状況

第112期	売上高 (単位: 百万円)	増減率 (前年同期比)	営業損益 (単位: 百万円)	増減率 (前年同期比)
自転車部品	277,243	2.6%	57,250	△ 0.3%
釣具	70,436	8.0%	8,544	21.8%
その他	355	△ 4.7%	△ 107	—%



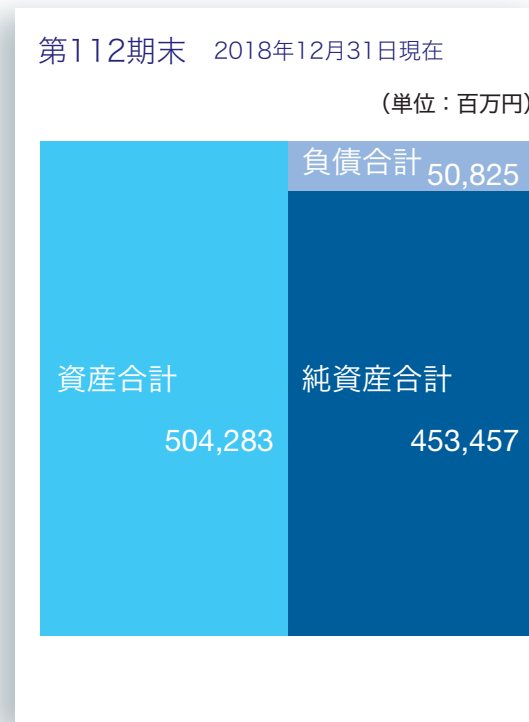
■ 連結損益計算書 (要約)



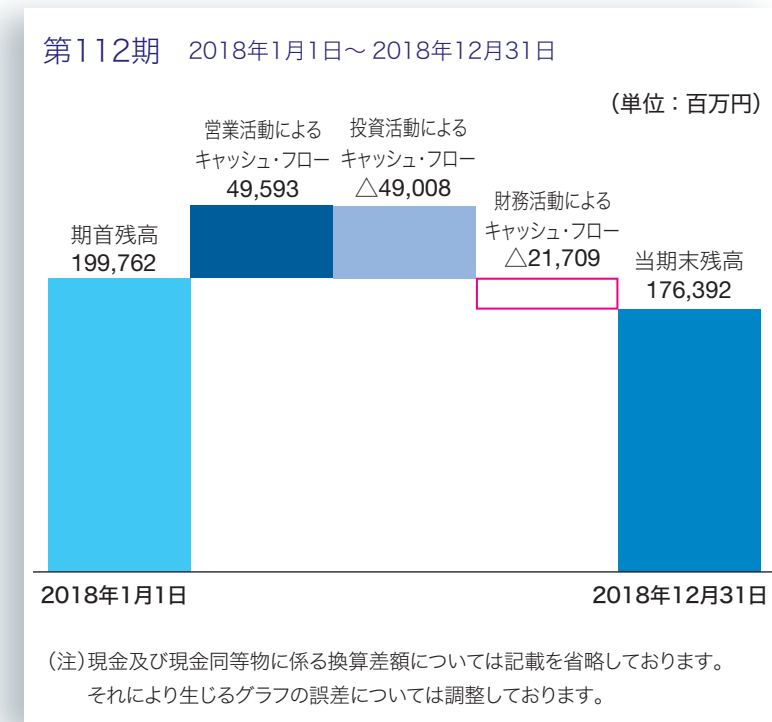
第113期予想 (連結)

	業績予想		セグメント別売上高予想	
売上高	3,650 億円	前年同期比 4.9%増	自転車部品	2,930 億円 前年同期比 5.7%増
経常利益	730 億円	前年同期比 0.8%減	釣具	715 億円 前年同期比 1.5%増
親会社株主に帰属する当期純利益	540 億円	前年同期比 0.1%増	その他	5 億円 前年同期比 40.5%増

■ 連結貸借対照表 (要約)

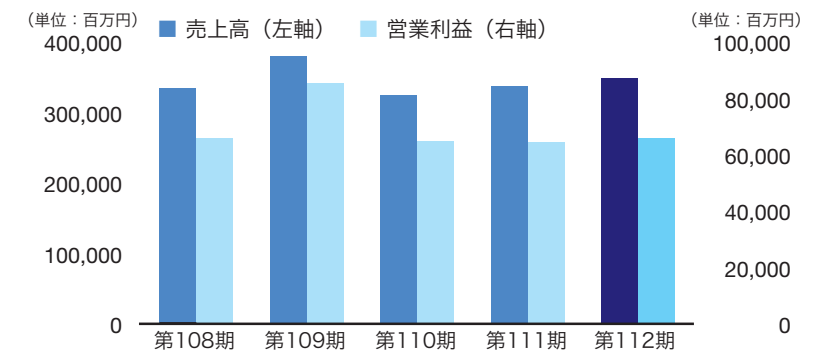


■ 連結キャッシュ・フロー計算書 (要約)



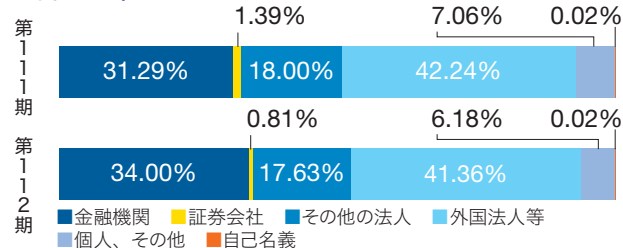
売上高と営業利益の推移

第112期の売上高・営業利益は、自転車部品事業では各コンポーネントのモデルチェンジや追加モデルが好評だったことから売上は前期を上回ったものの、電動アシストスポーツバイクコンポーネントのラインナップ拡充のための費用や研究開発費の先行投資で営業利益は前期を下回りました。一方、釣具事業は、米国市場、アジア市場での販売が好調であったことから増収増益となりました。

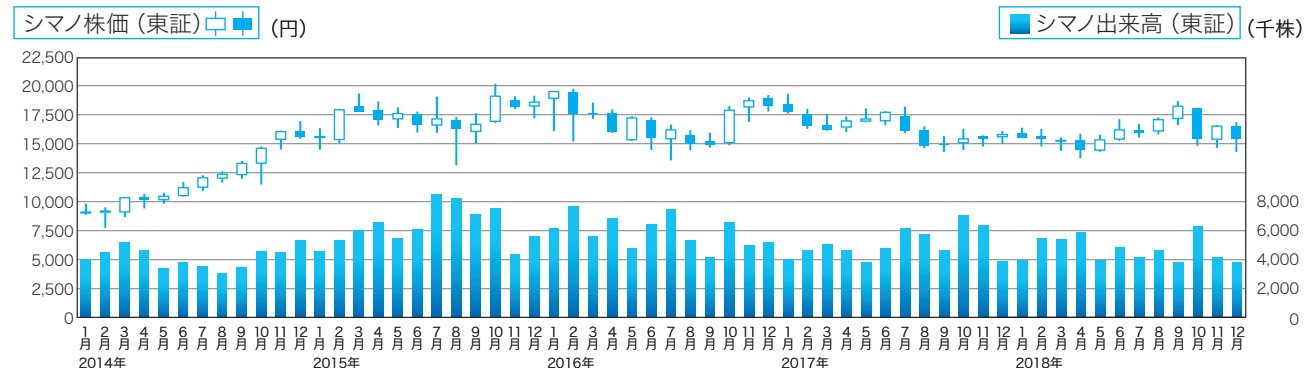
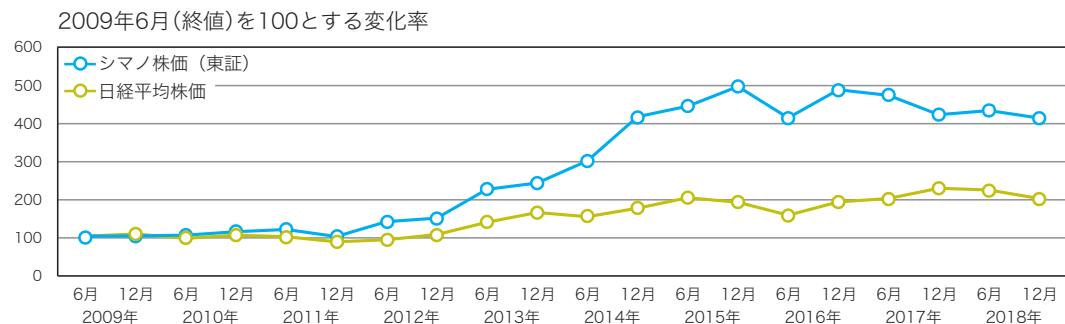


- 発行可能株式総数 262,400,000株
- 発行済株式の総数 92,720,000株
- 株主数 6,887名
- 単元株式数 100株

所有比率



株価チャート



大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
湊興産株式会社	7,715	8.32
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	6,023	6.50
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	5,136	5.54
太陽工業株式会社	4,060	4.38
JP MORGAN CHASE BANK 380055	3,677	3.97
株式会社スリーエス	2,171	2.34
日本生命保険相互会社	2,098	2.26
株式会社三菱UFJ銀行	2,066	2.23
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	1,790	1.93
株式会社りそな銀行	1,711	1.85

(注)持株比率は自己株式(18,430株)を控除して計算しております。

社名 株式会社シマノ
 英文社名 SHIMANO INC.
 創業年月 1921年2月
 設立年月 1940年1月
 資本金 35,613百万円
 従業員数 1,345名
 事業内容 自転車部品、釣具、ロウイング関連用品等の製造販売
 本社 〒590-8577
 大阪府堺市堺区老松町3丁77番地
 U R L <https://www.shimano.com>

役員

代表取締役社長	島野 容三	取締役	松井 浩
代表取締役副社長	角谷 景司	取締役	大津 智弘
専務取締役	和田 伸司	取締役	大竹 正浩
常務取締役	湯浅 哲	取締役	清谷 欣司
常務取締役	平田 義弘	社外取締役	一條 和生
常務取締役	島野 泰三	社外取締役	勝丸 充啓
常務取締役	津崎 祥博	常勤監査役	島津 孝一
常務取締役	豊嶋 敬	常勤監査役	勝岡 秀夫
取締役	樽谷 潔	社外監査役	野末 佳奈子
取締役	チア チン セン	社外監査役	橋本 敏彦

株主メモ

事業年度 毎年1月1日から12月31日まで
 定時株主総会 3月
 基準日 期末配当金 毎年12月31日
 中間配当金 毎年6月30日
 単元株式数 100株
 公告方法 電子公告
 当社のホームページに掲載いたします。
 (<https://www.shimano.com>)
 ただし、やむを得ない事由によっては電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
 株主名簿管理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 事務取扱場所
 郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 電話照会先 ☎ 0120-782-031
 ホームページURL <https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>
 証券コード 7309